

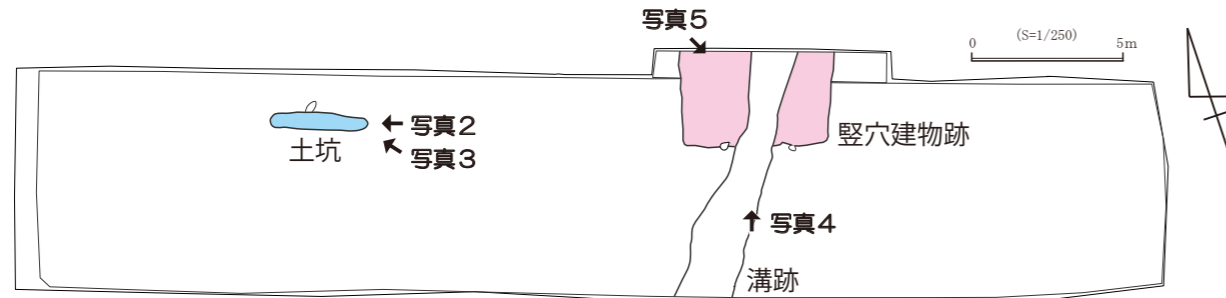
II. 調査成果

1. 後沢遺跡

縄文時代の土坑（穴）1基、古代（奈良～平安時代）の竪穴建物跡1棟のほか、溝跡1条などを確認しました。また、遺物は土師器、須恵器、陶磁器、砥石が出土しました。

土坑は動物を狩るための陥し穴で、幅が狭くて深く、壁の一部が外側にえぐれているという特徴があります。

竪穴建物跡の床の上には、炭化材や炭化物を多く含む土が堆積していることから、火災に遭った可能性あります。



2. 後沢道南遺跡

古代とみられる掘立柱建物跡4棟、柱列跡1条、古代以前の竪穴建物跡1棟のほか、溝跡1条、土坑1基、焼成遺構1基などを確認しました。また、遺物は土師器、須恵器、陶磁器が出土しました。

掘立柱建物跡は1と2、3と4が方向をそろえており、それぞれ同じ時期に存在していたと推定され、奈良時代に1・2が、その後3・4が建てられたとみられます。

竪穴建物跡は一辺約3.3mの隅丸方形で、堆積土には10世紀前葉頃に降ったと考えられる火山灰層を確認しました。

